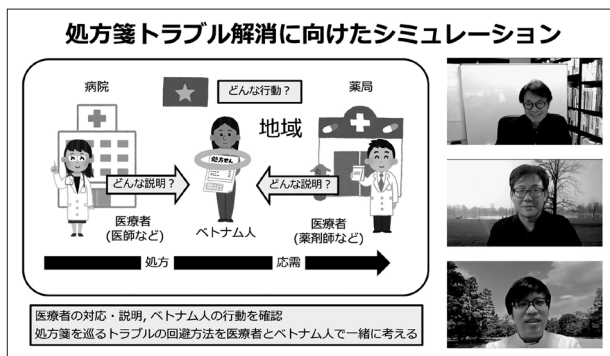


外国人が安心して暮らせる地域創生 ～処方箋トラブル解消に向けたシミュレーション～

鈴木 渉太 ● 奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター 助教



第1回 Webミーティングの様子(岡田・鈴木・西川)

らすベトナム人の参加を募り、処方箋をテーマとしたワークショップを開催する。参加者らで、(1) 医療機関で医師が外国人患者に処方箋を出す場面、(2) 薬局で薬剤師が外国人の持ち込んだ処方箋に応需する場面、それぞれでどういった配慮が必要なのか考える。病院と薬局、それぞれの立場でどのような対応をとっているのか、実際に処方箋をつなぐ外国人も交えてディスカッションをすることで、問題点を共有し理想的な対応を検討する。

病院や薬局で働く医療者には、外国人患者と接する際にどのような配慮が、また日本で暮らすベトナム人には病院や薬局を利用する際にどのような注意が必要なのかを明らかにして、多言語表記でわかりやすくまとめた資料(冊子・リーフレット)とアニメーション動画を制作する。後日、開催を予定しているシンポジウムの中で成果物を紹介する。

1. 背景と目的

社会の国際化に伴い、保険薬局においても、言語・文化の違いに配慮した患者対応が求められている。病院等の医療機関では、外国人患者対応の可能な施設認証が広まり、受診する施設の検索が容易となったが、処方せんを応需する薬局は対応しておらず、十分な備えのない薬局に院外処方せんが持ち込まれた場合等にはトラブルとなる。

過去の調査では、外国人は日本の医療機関を利用することに、また薬剤師は外国人患者と接することに、それぞれ不安を抱えていることが報告されている。申請者らはこの問題に対して外国人が安心して暮らせる地域の創生を目標に据え、双方の不安を軽減するため、薬剤師が利用できる外国人患者向けの資料・アプリ開発に取り組んできた。

この活動では、医療者と外国人を募りワークショップを開催することで、外国人であっても安心して利用できる医療体制の整備に向けて、処方せんをテーマに共に考える場を設ける。

2. 取り組みの方法

病院や薬局で働く日本人医療者と日本で暮

3. 期待される成果

COVID-19パンデミックにより、日本で暮らす外国人が国内の医療情報を得るのに苦労しているというニュースが注目を集めた。今後も日本で暮らす外国人人口は増加が見込まれることから、いつ起こるかわからない災害や緊急事態に備えて、地域で外国人のサポートができるように働きかけていく社会的意義は大きいと考えられる。また、同じ日本人医療者間であっても、病院と薬局では環境が大きく異なり、互いの場面を想像する機会は稀である。このワークショップでは、処方せんを中心に外国人にも協力してもらうことで、職場や職種を超えた相互理解を深める場となり、外国人患者の処方せんを巡る医療の質向上や医療安全への寄与が期待される。